

資料収集の基本的な考え方と収蔵資料の整理について(案)

1. 今後の資料収集に関する基本的な考え方

当館は 1959 年の開館以来今日まで、日本で唯一の総合的なスポーツ博物館・図書館として、近代スポーツの歴史に関わる資料を中心に収集・保存・公開を行ってきた。

今後の資料の収集に関しては、現在収蔵している当館の資料の状況や期待される役割を踏まえた上で、計画的な収集を行い、我が国のスポーツの歴史に関する体系的な資料群を形成していく。

(期待されている役割)

- ・継続的に資料の収集・保存を行い、スポーツ文化財として後世へ資料を継承すること
- ・スポーツと日本社会の発展等、スポーツの歴史を様々な視点から総合的に伝えること
- ・スポーツの持つ様々な価値や魅力を伝えること

(現在収蔵している資料の特徴)

- ・蹴鞠や武術、遊戯など日本古来のスポーツにかかわる資料
- ・明治初期から現在に至る競技や競技大会にかかわる資料
- ・日本のスポーツ史を俯瞰できるまとまった資料

今後収集すべき具体的な資料のイメージ

スポーツには身体活動、遊び、儀礼、教育、競技などさまざまな側面がある。新しい博物館・図書館では、スポーツを多角的な視点から捉え、過去から現在までの日本のスポーツ史に関する資料を幅広く収集していく。

具体的な資料のイメージは次のとおり。(例示は、これまで収集してきた資料の実例を参考として記載)

(博物館資料)

- ・日本におけるスポーツの発展の歴史が俯瞰できる資料
(例)明治神宮外苑競技場・国立競技場で開催された競技大会に関する資料
日本のオリンピック招致の歴史に関する資料
- ・スポーツの普及・発展に尽力した人物、スポーツ用具の発展等のテーマに沿った資料
(例)平沼亮三など旧日本体育協会の役員、清川正二など IOC 役員のコレクション
マラソン足袋、下駄スケートなどの日本独自のスポーツ用具
- ・オリンピック・パラリンピック大会等、日本で開催された大規模な大会に関する資料
(例)大規模大会のポスター、メダルなど

(図書館資料)

- ・スポーツの歴史に関する書籍
- ・スポーツ雑誌、競技団体等の機関誌のバックナンバー
- ・競技大会のパンフレット、プログラム、報告書等

2. 収蔵する資料の整理について

日本のスポーツの歴史的発展に関する資料は今後も継続して収集していく。その前提に立った上で、限りある収蔵スペースを有効活用する観点から、現在収蔵している資料のうち、テーマに沿わない資料については、他館への移管、譲渡等を検討する。